

授業科目名	民法Ⅱ（物権法）	期別	前期	授業形態	講義
担当者名	石松 勉	単位数	2	開講年次	1

### 授業科目の概要

本講義では、物権法の領域のうち、物権的請求権、意思主義・対抗要件主義、物権変動の基本原則、様々な物権変動の諸問題のほか、所有権、占有権、共有についてその特質を概観した上で、地上権、永小作権、地役権等の用益物権の具体的な中身についても学んでいく。

### 到達目標

- (1) 物権侵害の場合における物権の効力、特に物権的請求権の問題について理解し、わかりやすく説明できること。
- (2) 所有権の内容とその制限、共有関係について説明できること。
- (3) 占有の特質に関して説明できること。
- (4) 民法177条をめぐる問題点について理解し、説明できるようになること。
- (5) 物権変動の仕組みや解釈論上の問題点について理解を深め、わかりやすく説明できること。
- (6) 地上権・永小作権・地役権等の用益物権の中味について理解を深め、わかりやすく説明できること。
- (7) この分野の基本的な法的知識の修得を基にして、立場固定、立場互換をしながら自分の考え方を説得的に書いたり、発表、説明したりすることができるようになること。

### 成績評価基準および方法

定期試験70%、課題レポート（8～9回程度）・小テスト（1～2回程度）20%、授業中の質疑応答10%の割合で総合的に評価する。その際、上記到達目標に対応した基本的、基礎的な法律知識の修得ができてきているかどうか、論理的、説得的な発言、論述等ができてきているかどうか、法的思考能力、説明力・表現力・プレゼンテーション力等が身に付いているかどうかをみる。

### テキストおよび参考文献

#### <教科書>

- (1) 佐久間毅著『民法の基礎2 物権〔第2版〕』（有斐閣・2019年）  
本体2,400円 ISBN978-4-641-13803-2
- (2) 松尾弘＝古積健三郎著『物権・担保物権法〔第2版〕』（弘文堂・2008年）  
本体4,000円 ISBN978-4-335-30315-9〔後期開講科目の『民法Ⅲ（担保物権法）』でもテキストとして使用予定〕
- (3) 内田貴ほか著『民法判例集 総則・物権〔第2版〕』（有斐閣・2014年）  
本体2,900円 ISBN978-4-641-13674-8

#### <参考書>

- (1) 別冊ジュリスト237号『民法判例百選Ⅰ総則・物権〔第8版〕』（有斐閣・2018年）  
本体2,200円 ISBN978-4-641-11537-8
- (2) 内田貴著『民法Ⅰ総則・物権総論〔第4版〕』（東京大学出版会・2008年）  
本体3,300円 ISBN978-4-13-032351-2
- (3) 松本恒雄＝潮見佳男編『判例プラクティス・民法Ⅰ総則・物権』（信山社・2010年）  
本体3,600円 ISBN978-4-7972-2626-3（今年第2版の刊行が予定されています）

※事前の予習範囲を示した講義レジュメを毎回配布するので、それに沿って上記の教科書・参考書を基に予習を図ること。  
なお、各分野における参考文献については、講義の際に適宜指示する。

### 履修上の留意点、準備学習等（事前・事後学習）

受講者は事前に、毎回の講義レジュメに示された教科書の指定箇所を熟読し、さらにその中に掲げられた事例問題や重要裁判例を事前に考え、あるいは精読して講義に臨むように（3～5時間程度を目安に予習を図ること）。授業は講義6割、質疑応答4割程度を目安に双方向、多方向で進めていく予定であるので、受講者は自分の頭で考えて理解できたことを講義の際に発表できるように準備してきてください。講義終了後は、各分野の基本的事項のさらなる定着を図るために、過去の司法試験短答式問題やTKCの確認問題等を活用し、また、予習の際には気づかなかった問題点や講義の中で浮き彫りとなった疑問点については再び教科書、参考文献を基に復習をかけ、掘り下げた検討を行って深く理解できるようにしておくこと（1時間程度の復習）。

### 授業計画および内容等

第1回	物権法序説	物や物権の意義、物権法の基本構造、物権法の一般原則（一物一権主義・物権法定主義）等について解説する。
-----	-------	--

第2回	物権的請求権	物権の効力である物権的請求権について検討する。
第3回	不動産登記	不動産登記の意味、登記請求権、登記の流用をめぐる問題、中間省略登記をめぐる問題等について解説する。
第4回	物権変動論(1)	民法177条における「第三者」の範囲をめぐる判例・学説の展開を見る。特に背信的悪意者排除論について解説する。
第5回	物権変動論(2)	登記を要する物権変動のうち、①取消しと登記、②解除と登記、③相続と登記(共同相続)について検討する。
第6回	物権変動論(3)	登記を要する物権変動のうち、④相続と登記(遺産分割、相続放棄、遺贈)、⑤取得時効と登記について検討する。
第7回	物権変動論(4)	無権利者からの物権変動の場合における民法94条2項の類推適用論、民法94条2項・110条の重畳適用論について検討する。
第8回	物権変動論(5)	動産の物権変動をめぐる問題(明認方法)と即時取得制度について解説する。
第9回	占有権(1)	民法の随所にみられる占有についてその意義を確認するとともに、占有移転の形態について検討する。
第10回	占有権(2)	占有訴権を、物権的請求権との対比で理解し、占有の交互侵奪の問題についても検討する。
第11回	所有権(1)	所有権の意義・内容、そして所有権の原始取得原因としての「無主物先占」、「遺失物拾得」、「埋蔵物発見」、所有権のもう一つ別の取得原因としての添付(「付合」、「混和」、「加工」)について解説する。
第12回	所有権(2)	所有権の制限という視角から相隣関係を概観する。
第13回	共有	民法における共有制度について概観する。特に共有の意義、共有の内部的関係と対外的関係、共有関係の解消としての共有物分割について解説する。
第14回	建物区分所有・小テスト	建物区分所有に関する問題、特に権利内容、権利関係、建物の管理などについて検討する。残った時間で前回の「共有」に関する確認の小テストを実施する。
第15回	用益物権	他人の土地の利用を目的とする用益物権(地上権、永小作権、地役権、そして入会権)についてその意義や種類等を解説する。
関連 URL		
備考欄		